# 小児科・耳鼻科の体制で地域を変える

## ⑫⑤ 亀戸こども元気クリニック（東京都江東区）

クリニック入り口。一般の外来とは別に予防接種・健診専用の入り口を設けた。感染のリスクを低減させる狙い

亀戸こども元気クリニックは小児科と耳鼻咽喉科の二診体制を取っている。ミルディス小児科耳鼻科（東京都足立区）の分院だ。

「小児科と耳鼻科の医師が組むことにメリットはあります。風邪をひくと、耳や鼻が悪くなることがある。耳や鼻の診察が不十分なことも少なくありません。両科がタッグを組めば、子供を診る上で大きなプラス」（平野浩二理事長）

開院は昨年の9月。本院の試行錯誤を生かし、施設や設備にも創意工夫を凝らしている。

「一番大きいのは入り口を分けていること。一般と予防接種・乳児健診を完全に分離しています。決して交差しない構造にしました」

公費・私費を問わず、予防接種の機会は以前に比べ、飛躍的に増えている。赤ちゃんのころから積極的に打っていく傾向。来院した際に風邪をはじめいろいろな病気を移されるリスクは常にある。赤ちゃんをいかに守るかは重要だ。

「多くの診療所では予防接種専門の時間帯を設けることで対応しています。特に東京ではそうです。当院は予防接種希望者と一般患者が交差しないようにしたことで、打ちたいときにはいつでも予防接種を打つことができます」

受付。院内は明るい色合いで統一。子供たちにも親しみやすいものとなっている

隔離室1・2。これも感染症対策の一環

入り口を入った後の受付、待合室も完全に遮断。普段はブラインドを下ろしている

待合。おもちゃや絵本をそろえ、子供たちが楽しく過ごせるように工夫

耳鼻科診察室。顕微鏡をはじめおなじみの機器と子供向けの工夫が並存

耳鼻科検査室。子供が多く来る施設の特性を考え、二重の防音で対応

平野氏はもともと耳鼻科医。小児科と耳鼻科が並び立つクリニックの理想とは何かを考え続けた結果、現在のスタイルに行き着いた。

「子供が小児科に行って、また耳鼻科も受診するのは保護者にとっても大変。当院なら、ワンストップで両方の科を回ることができます」

受診した患者に対しては、夜間電話応対も行っている。夜、急に熱が出たときなど、医師が電話で相談に乗るものだ。かかりつけ医としての本分を全うするサービスといっていい。

平野氏が医師を志したのは社会的弱者への関心からだった。医学部を志したのはちょうど国際障害者年の年。当時から始めた手話では「手話通訳士」の資格を持っている。東京でも珍しい手話でも診察を行える耳鼻科医でもある。受付にも一人、手話ができるスタッフがいる。

「手話通訳を介さないでろうあ者と一対一で診察ができる医師は全国に何人もいません。せいぜい5人くらいではないでしょうか」

平野氏が構える二つのクリニックは少しずつ着実に地域の医療を変えようとしている。